

ふるさと、いかた

中村 修二

Syuji Nakamura



カリフォルニア大学
サンタバーバラ校材料物性工学科 教授
昭和29(1954)年5月22日、伊方町大久生まれ。日亜化学工業株式会社(徳島県阿南市)在籍時の平成5(1993)年に青色発光ダイオードの開発製品化に成功。平成26(2014)年、赤崎勇名城大学終身教授、天野浩名古屋大学教授と共同でノーベル物理学賞を受賞。

地元・伊方町での海の思い出

生まれ育った伊方町大久(旧瀬戸町)にある磯には、春から夏にかけて毎週のように行っていました。

家族や親戚の30人近くで出かけては、海鮮バーベキューを楽しんでいました。子どもたちはつぼ貝やサザエなどの貝類を捕り、大人たちは海に潜って魚を捕ってくれました。夏にはタコなども捕れましたね。新鮮な魚貝は本当においしかったです。子どもの頃の思い出の味ですね。だから、今でも「焼き魚」が一番の好物です。数年前の夏にプライベートで家族と大久に帰ったのですが、佐田岬半島の魚は、いつ食べても本当においしいですね。普段は、学校が終わるとすぐ近所の友達と家の前にある波止場に行って釣りをしていましたね。たまに大きいのが釣れたときは、母親に晩ご飯のおかず調理してもらっていました。

今思えば、子どもの頃に自然に触れることで探究心が芽生え、科学に興味を持つようになりました。海を眺めながら、「この海はどこまでつながっているのだろう?」「夕焼けはなぜ綺麗な赤色なんだろう?」「魚はなぜ海の中で生きていけるんだろう?」とよく考えていました。



故郷との関わりと現在の研究

平成27年2月5日に伊方町の町民栄誉賞をいただきました。そのときに記念碑を作っていただいたり、帰郷したときの資料などを展望台内に掲示していただいたりと本当に感謝しています。

また、大久展望台では、私の研究成果を代表するLEDを使ってライトアップが行われています。夕方から七色に変わりながら展望台を照らす様子は、幻想的で観光客に人気があると聞いています。

現在、私はカリフォルニア大学で、青色レーザーの光で遠くを照らすための研究を行っています。例えば車のヘッドライトにLEDを使うと、300mが限界です。これが青色レーザーなら1km先も可能になるんです。将来的に、漁師や航海のため佐田岬灯台などに応用できればいいと考えています。

愛媛の美味しい魚を
全国に紹介してください

職業柄、学会などで世界各地へ赴くことが多いのですが、アメリカやヨーロッパなどは本当に魚料理が少ないです。全世界で見ても、これだけ多種多様な魚が捕れて食卓に上がるのは、日本だけだと思います。その日本の中でも、豊後水道の豊潤な海の恵みをうけた佐田岬半島の魚は特においしい!広報活動などを通じ、この愛媛・伊方町のおいしい魚を日本全国に発信してってもらいたいですね。そうすることで、おいしい魚と、佐田岬の美しい景色をもっと多くの観光客に知っていただき、伊方町を訪れてもらえると嬉しいですね。

このインタビューは「Eのさかなvol.10」(2018年)発行の記事に加筆修正を加えたものです。

生誕の地記念碑



アジ・サバ

三崎漁港に水揚げされたアジやサバは、鮮度を保つために独自の処理をしてから出荷します。



佐田岬海鮮しゃぶ

旬のアジやサバ、タイ、ハマチ、伊勢エビなど、刺身でもおいしく食べられる新鮮な魚介をしゃぶしゃぶにしました。焼いた魚の骨やアラを出汁に使っています。



宇和海ちりめん

宇和海で大量に水揚げされる新鮮な小魚（いわしの稚魚）を浜茹でにした最高級品。土産物として人気です。



じゃこカツ

魚のすり身にニンジンやゴボウなどの野菜を加え、パン粉をつけて油で揚げたコロケ風のソウルフード。



二色しらす丼

“釜揚げしらす”と“生しらす”の2種類を使ったちょっと贅沢なしらす丼。2つの食感が同時に味わえます。



アワビ・伊勢エビ

伊予灘、宇和海、豊予海峡の3つの海に囲まれた伊方町には好漁場が多く、新鮮でおいしい魚介類が豊富に水揚げされます。



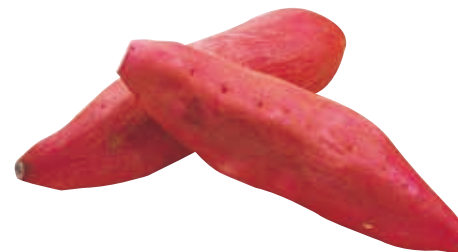


海産物加工品

ちりめんや佃煮、乾物、菓子など海産物を使った加工品も充実。町内の道の駅や小売店のほか、通販でも購入できます。

瀬戸金太郎芋

伊方町瀬戸地区の土壌はサツマイモの栽培に適した良質な赤土で、甘くておいしい金太郎芋が栽培されています。



温州みかん・清見タンゴール

海沿いの傾斜地に築かれた段々畑では、太陽の光と潮風を浴びながら温州みかんや清見タンゴールなどの柑橘がおいしく育っています。



新鮮な魚介類や段々畑で育った柑橘、それらを原料にした加工品など、佐田岬は一年中、おいしいもので溢れています。



柑橘マーマレード

伊方町で育った旬の柑橘を皮ごと贅沢に使い、マーマレードにしました。無添加・低糖・手づくりこだわった自慢の逸品です。



地酒・焼酎

伊方杜氏の酒造りの伝統を受け継ぐ地酒や、瀬戸金太郎芋を使った芋焼酎「瀬戸の金太郎」があります。

うにまんじゅう

白餡に卵黄と佐田岬で採れたパフンウニを練り込んだ「ウニ餡」を、ミルク風味の生地で包み、焼きあげた地元の銘菓。



柑橘ジュース

紅まどんな、せとか、甘平など的高级柑橘を丸ごと搾った果汁100%のストレートジュース。甘みと酸味のバランスが絶妙で贈答品にも最適。



郷土の歴史・文化

佐田岬の特異な地形と豊かな自然に磨かれた独自の歴史・文化が、それぞれの地域の誇りとして継承されています。



三崎のアコウ (国指定天然記念物)

クワ科の常緑高木で現存4本のうち最大のものは幹周(根廻り)約14m。生育の北限になるため、国の天然記念物に指定されています。

MAP G-8



旧正野谷棧橋 (国登録有形文化財)

豊予要塞の軍事遺跡の一つで長さ約50m、幅約5mのコンクリート造りの棧橋。第2砲台の建設資材を陸揚げするために造られました。

MAP G-3



旧三崎精錬所焼窯 (国登録有形文化財)

明治33(1900)年に設置された精錬所。現在は多数の焼窯跡が残るほか、精錬過程で出た“からみ”が海岸に散在しています。

MAP H-6



須賀の森 (県指定天然記念物)

須賀の森は長い年月をかけて潮や風が運んだ砂や石でできた地形で、八幡神社の境内にもなっており、ウバメガシが400本以上群生しています。

MAP E-17



ナギ (県指定天然記念物)

真言宗の古刹、法通寺の境内にそびえるナギは樹高約19m、幹囲約3.5m、樹齢約700年。毎年5月下旬から6月上旬に開花します。

MAP F-23



子持勾玉 (町指定有形文化財)

三崎・中村遺跡から出土した古墳時代中期の勾玉。南予地域では現在唯一の出土例で、祭祀用と考えられています。 **MAP G-8**



三机古絵図 (町指定有形文化財)

三機の町を中心に描いた藩政時代の絵図で、大きさは2.7m×2.6m。当時の三機の繁栄ぶりがしのべられます。 **MAP F-16**



木造不動明王立像 (町指定有形文化財)

法通寺護摩堂の本尊で平安時代末期の作。文明6(1474)年の地震で海上から現れたと伝えられています。



傳宗寺本堂 (町指定有形文化財)

間口9間(16.4m)、奥行き7間(12.7m)。海から流れ着いた木材で建てられたと伝えられています。天保6(1835)年の建築。 **MAP G-8**



宮の森 (町指定天然記念物)

小島地区の東に広がる森で、昔は天満宮の鎮守の杜でした。現在はタブノキやシイの巨樹が群生しています。 **MAP E-14**



クロキヅタ (町指定天然記念物)

全国でも数カ所で見られない貴重な海藻。昭和29(1954)年に地元の植物学者・野村義弘氏により確認されました。 **MAP G-23**

町見郷土館

MAP F-19



旧町見中学校の校舎を利用した郷土資料館。館内には四国では珍しい裂織りの仕事着や南予の祭りを彩る牛鬼など、地域住民が暮らしの中で使ってきた農具や民具、生活資料など約4,500点を収蔵し、テーマに沿って展示しています。

**町見郷土館
サポーター**

佐田岬みつけ隊



地域住民が中心となり、博物館を支え、育てる4つの活動(学習支援・企画展示・調査研究・収集保存)を学芸員と一緒に展開しています。独自の調査に基づいた企画展や講演会・見学会なども積極的に実施しています。

四季の祭り・伝統文化

脈々と受け継がれてきた伝統行事や祭りに加え、時代に即したイベントがまちに活気をもたらします。



きららまつり (伊方)

道の駅・伊方きらら館を会場に、地元や姉妹町村の北海道泊村の特産品を販売するほか、もちまき、テレビジャンケンゲーム、和太鼓 (伊方堂々太鼓) の演奏などで盛り上がります。



はなはな祭り (三崎)

「佐田岬はなはな」を会場に、太鼓の演奏やもちまき、ステージイベント、海鮮バーベキューなどで盛り上がります。フィナーレの花火は圧巻。



こいのぼり祭り (三崎)

大きなこいのぼりが空を泳ぐ中で、出店やイベントが行われ、風流を感じながら、家族で楽しめます。



佐田岬ふるさとウォーク

自然と触れ合いながら日本一細長い佐田岬半島をウォーキング。最長約46.5kmのコースのほか、体力に合わせてコース(距離)が選べます。

春

Spring



きなはい伊方まつり (伊方)

毎年7月開催の伊方町最大の夏祭り。和太鼓の演奏や子どもの相撲大会、活魚のつかみどり、食の祭典などが催され、伊方湾に打ち上げられる花火がフィナーレを飾ります。

夏

Summer



瀬戸の花嫁まつり (瀬戸)

毎年8月に開催される夏のイベント。ドレスに身を包んだモデルが登場するブライダルショーのほか、黒毛和牛のバーベキュー、相撲大会、花火大会などが行われます。



きそん(節) (伊方)

天明年間(1781~1789)に始まったとされる盆踊り。歌は必ず「出石山ほど高い山ないが」で始まり「千秋万来思いごと叶うた」で終わります。



佐田岬半島の初盆行事

地域ごとに行われる初盆行事は、個性のかつ多様性に富んでいます。平成22年には文化庁の「国の選択無形民俗文化財」に選ばれました。



しゃんしゃん踊り（瀬戸）

江戸時代にこの地域で相次いだ疫病や災害を治めるために始まった踊りで、300年以上受け継がれています。歌に出てくる「しゃんしゃん」からこの名が付けられました。



伊方秋祭り（伊方）

10月中旬の土日に一斉に行われる秋祭りでは、多くの家が鉢盛などの料理を準備して親戚や知人を招き、親交を深めます。



瀬戸芸能文化祭（瀬戸）

唐獅子や五ツ鹿などの郷土芸能、太鼓やブラスバンドの演奏、絵画や陶芸、生け花などの作品展示などを行う地域の総合文化祭。バザーや特産品の販売もあります。



三崎秋祭り（三崎）

毎年10月8・9日、江戸初期から続く伝統行事「牛鬼と四ツ太鼓の練り」が行われます。全長約10mの「牛鬼」と約10×4mの「四ツ太鼓」が蹴り上げ合戦を繰り広げます。



二名津お伊勢様（お伊勢踊り）（三崎）

毎年2月10・11日の春祭りで、烏帽子に大紋服を着けた神主役の若者2人をはじめ、総勢40人程が参加して行われます。その起りは弘安の役（1281年）だとされています。



佐田岬マラソン（瀬戸）

佐田岬半島の豊かな自然と美しい景色を楽しみながら走るマラソン大会。地元特産品が当たる抽選会やご当地グルメが食べられる昼食も好評。



佐田岬ワンダーイルミネーション

本庁前の駐車場を舞台にした光の祭典。光のアーチトンネルやイルミネーションタワーはSNS映えする撮影スポットとして人気。点灯式ではミニコンサートが催されます。



佐田岬レンタサイクル

伊方町では八幡浜市と合同で、佐田岬レンタサイクルを町内3施設で実施しています。豊かな自然の中で、おもいっきり風を切りながら楽しめるサイクリングコースが多数あります。



伊方のむかし話



おらとこの山

昔、佐田岬の先端の三崎村のとても背が高い男が、出稼ぎ先の都会の飯場でみんなと一緒に酒を飲んでいました。するとお国自慢が始まり、九州の男が「誰が何と言つても、山なら日本一の噴火山、阿蘇山だ」と得意顔で言いました。すると駿河の男が「馬鹿を言え、山と言ったら日本一の富士山よ」と鼻を高くして言いました。そして「お前のところの自慢の山は何だ」と三崎村の男に尋ねました。

日本一長い佐田岬の先端の村ですから、自慢するような山はありません。それでも男はとっさに「俺のところの山は13里もあり、とても長くて細い山なので、風が吹いて倒れないように今は横に寝かせ

加周池の大きに

昔、九町に「九町池」という面積13町歩の沼があり、大きなながすんでいました。ところが長い年月のうちに、近くを流れる新川から土砂が流れ込み、沼はだんだん狭くなり、かにも壘8枚くらいの大ささになったため、九町池にすめなくなりました。

そこである年の大晦日の夜に、海を渡って隣の地区の「加周池（現在の亀ヶ池）」（面積20町歩）へ移り、池の主であった「えんこ」と交替してもらいました。大がには広々とした池の主になった嬉しさのあまり、よく池の中を泳ぎ回ったため、池を渡って野良仕事に行く百姓たちの舟が、たびたび転覆するようになりました。困っ

ている。俺の村はその先端にあり、九州がすぐそこに見えている」と言つて、ごろんと横になりました。するとあまりにも男の背が高いので、頭が部屋の外に突き出て、顔は遠くにかすんで見えなかったそうです。



た百姓たちはお宮の神主さんに頼み、大がにを池の底深くに封じ込んでもらいました。

現在でもこの封じ込みが解けないようにと、毎年、お祭りには「牛鬼」がこの池を渡っていくならわしになっています。



■出典

〈加周池の大きに〉伊方町誌 〈おらとこの山〉愛媛の伝説 昔話・トッポ話 案内(秋田忠俊 著、伊予民俗の会 発行)より一部要約